

学校教育目標

「自ら学び、豊かな心でたくましく生きる子どもの育成」

研究主題

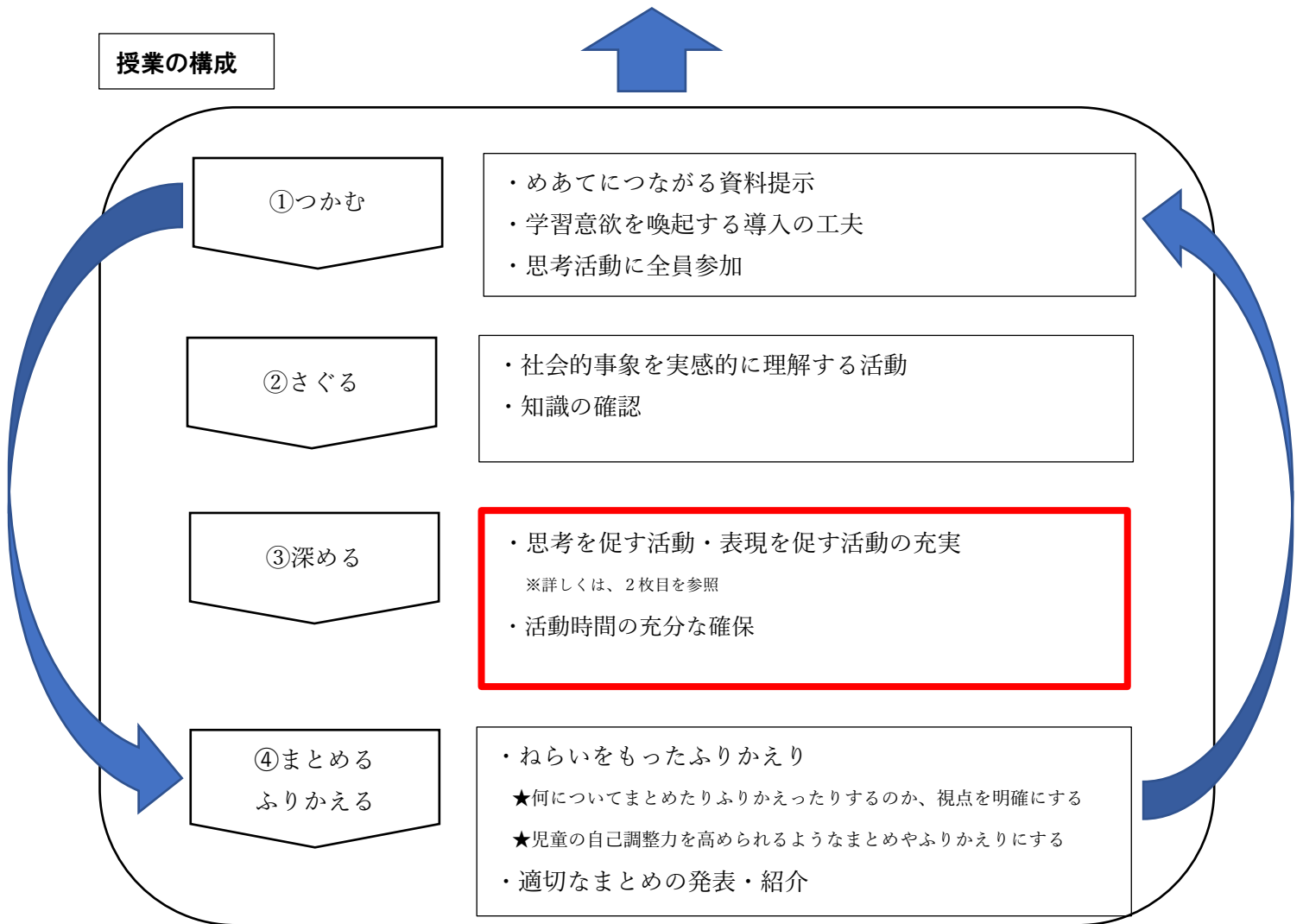
協働的に学び、深く考える活動の充実

～「できる」「分かる」「考えてよかった」という思いが持てる活動を通して～

めざす子ども像

じっくり考え、自分の考えを自分の言葉で表現することができる児童

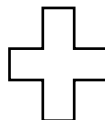
授業の構成



※赤枠が今年度の重点取り組み

児童の実態の的確な把握

- ・児童は、どこからつまずいているのか？
- ・児童は何につまずいているのか



教材研究 (T3 会議)

- ・何のために学ぶのか
- ・教科の本質をとらえる
- ・協同的な教材・授業づくり

☆思考を促す活動・表現を促す活動の内容例☆

<b>思考を促す活動</b>	
①思考を深める発問	全員が考えを持ち、参加できる発問を工夫する。 ★W発問…「何が見えますか。」事象に対する情報収集 Ex.この風刺画から気づいたことは何ですか？ ★H発問…「どうなっていますか。」事象の状態・構造の把握 Ex.不平等条約は、何が不平等だったのでしょ。う。 ★Y発問…「なぜ～ですか。」事象に対する因果関係の探索 Ex.なぜ条約改正に長い年月がかかったのだろう。
②考えたくなる発問	児童の思考のズレを取り入れた思考意欲の高まる発問をつくる。 ★「～なのに、なぜ～？」というような形の学習課題
<b>表現を促す活動</b>	
①発表の機会の確保	短冊やホワイトボード、Fig jam 等を活用して、全員（全グループ）の意見を表示する。
②ペア・グループでの話し合い	協働で情報収集、情報整理、発表内容の吟味を行う。 友だちとともに話し合い、考えることで「そうか、わかったぞ！」といった達成感や、反対に「なんで？どうして？」といったこまり感が生まれるような話し合いを目指す。
③まとめ・ふりかえり	1文目 わかったこと 2文目 1文目の説明 3文目感想 の合計3文でまとめることを基本とする。児童に力がついてくれば、文章量を増やす。

※「自己の考えをもつ」ために思考を促す活動と表現を促す活動を1時間の中に組み入れる。

大切なのは、対話。対話を通して思考活動ができる環境づくりを整える。

**〈基礎学力の定着〉**

**〈朝タイムの充実〉**

月 国語・漢字
 火 読書・言葉
 水 英語・国語
 金 算数・計算

〈進め方〉  
 基本は2週間のサイクルでまわす。1週目は計算・言葉・漢字などの反復練習に取り組ませる。2週目は問題数を絞り、応用問題にじっくり取り組ませる。※児童の実態によって、進め方は変更しても良い。  
 ※宿題との関連をはかって、チェックテストを定期的に行い、学習内容が定着しているか、定期的のみとるようにする。  
 Ex.  
 ・81マス計算を行いタイムの変化をみとる。  
 ・家庭学習で数回練習した後、チェックテストを行う。間違えた字は家庭学習で繰り返し練習させる。

**継続した反復練習で基礎学力の定着を目指す**

**〈家庭学習の質の向上〉**

低学年・音読・漢字（80～100文字）  
 ・計算ドリル・50マス計算・自主1ページ  
 ・日記・作文  
 中学年・音読・漢字（100～120文字）  
 ・計算ドリル・81マス計算・自主1ページ  
 ・日記・作文  
 高学年・音読  
 ・漢字（120～150文字）  
 ・計算ドリル・100マス計算・自主1ページ  
 ・日記・作文

※漢字は毎日1ページ。金曜日は、2ページ。意味のある練習になるように、丁寧な指導を心がける。  
 ※81マス計算は、タイムを測る。速く正確に計算できる力を育てる。

**どの学年も徹底して最後までやらせきる**